

N児のコミュニケーション支援の試み ～散歩の取り組みを通して～

原田絹子

1. はじめに

1年生の時のN児は学校生活に見通しがもてないこともあり、教師に誘導されるままに活動に参加しているように見えることが多かった。そんなN児だが2年生になり、実物や実際の経験を手がかりに結果を予測しているようすが見られるようになった。これまで混沌としていたN児の生活に少しずつ道筋ができ始めたことがうかがえた。

しかし、自分の予測と実際が異なると、泣いたり怒ったり、とくに食べ物に関わる事柄では激しい意思表示をした。そこで、散歩を取り上げ、「手がかり→予測」のパターンを広げる試みを行うことにした。初めの段階では、手がかりはN児が日常親しんでいる実物を使用し、N児の様子を見ながら工夫を加えたいと考えた。

2. 対象児

N児 小学部2年 8歳 女児

3. プロフィール

(1) 検査結果

KIDS('03.6.20) 総合発達年齢 1:0 総合発達指数 12

領域	運動	操作	理解言語	表出言語	概念	対子ども	対成人	しつけ	食事
発達年齢	1:6	1:5	0:9	0:7	0:0	1:1	0:6	2:3	0:7

(2) コミュニケーションの様子

- 受信面
- ・日常生活で毎日繰り返している事柄には音声言語だけでも反応する。
 - ・写真や絵カードを補助的に用いることで行動が促されることがある。
- 発信面
- ・有意味の発語はなし。機嫌のよい時には「めめ～っ」等の発声がある。
 - ・要求表現…クレーン、直接行動（給食おしまい：スモックを脱ぐ等）
身振りサイン（ちょうだい：両手をパンパンと合わせる）

4. 目標

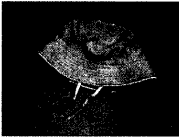



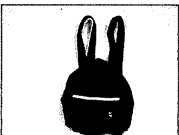

- ①実物や写真カードなどを手がかりにイメージをもって散歩を楽しむ。
- ②「ない」「おしまい」がわかる。
- ③散歩の経験を広げ、いろいろなパターンを受け入れるしなやかさや自己調整する力をつける。

5. 方法

- ・実物を用いての買い物やおやつの有無の予告（表1）
- ・写真カード等を用いた行き先、経路、お店、買う物などの予告
- ・身振りサイン「ない」の理解

手がかりを与えた後、散歩の時の様子を行動観察し **手がかり→予測** がつながり、見通しがもてていたかどうかを検討する。一度の経験では見通しにつながらない場合も多いので、同じ手がかりで繰り返し実施する。つながりが見られない場合は、手がかりそのものを再検討する。

(表1)

手がかり	N児にもってほしい予測	手がかり	N児にもってほしい予測
 帽子	→散歩へ行く	 おやつ	→おやつを食べる
 リュックサック	→散歩へ行く	 紙コップ	→途中で飲み物を買って飲む
 ミニリュックサック	→散歩へ行く →おやつはない	 さいふ	→途中でおやつを買って食べる

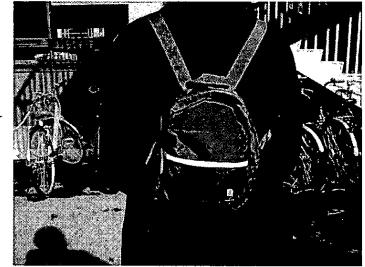


写真1
「今日はどんなさんぼかな…」

(※時間割カード、着替えセットも使用)

6. 経過

□買い物…途中でおやつを購入した場合は■
□おやつ…持参おやつがある場合は■

	行き先・内容	手がかり	N児の予測	ようす(・)考えたこと(→) 次回の支援(*)
5/20	交通公園 □買：なし □お：なし	T：リュックサック N児：帽子	・出かける ・おやつ食べる	・学校に戻ってから泣く。 →教師の持ち物などから普段の散歩のように思っていたようである。 おやつがなかったのでがっかりしたのではない。 目の前の物への欲求以外で泣く姿は初めてである。 →実物を用いて散歩の内容を予告する。*
7/2	厚生年金 ■買：アイス □お：なし	T：リュックサック 財布 着替え N児：帽子	・出かける ・おやつあるかな	・出かける前にリュックサックの中身を見せると注目している。 手持ちのおやつはないが声かけに応じて散歩帽をかぶる。 →財布：おやつを購入するという見通しにつながったか不明。 ・店で一人ずつ入れてもらったアイス袋を持って歩く。 ・自分のアイスを食べて人の分もほしがる。目の色をかえているが全部なくなると落ち着く。 →「おしまい」「ない」は空容器を見せて伝えることが大切。*
9/8	白鳥路 ■買：アイス ■お：アメ	T：リュックサック 財布 アメ N児：帽子	・出かける ・アメを食べる	・出発前リュックサックの中身を見せる。アメを見てにわかに行動迅速になり、ズックの履き替え等もスムーズである。 ・店では菓手に順番に触れるだけで手に取ることはない。 ・白鳥路でおやつを食べたあとの帰り道、散歩帽を脱ぎ捨てる。 →「きょうのさんぼはおわった」という合図らしい。
9/19	白鳥路	T：リュック 財布 紙コップ グミ N児：帽子	・出かける ・グミを食べる	・なかよし広場で遊んでいるがリュックサックと散歩帽を見せて「おさんぼいくよ～」と声をかけると、迎えに行かなくても教室に戻ってくる。 声かけだけで来たのは初めてである。 →実物を手がかりに意欲が喚起されているようだ。 ・リュックの中のグミを見てさっと散歩帽をかぶる。

	<input checked="" type="checkbox"/> 買：ミルクコーヒー <input checked="" type="checkbox"/> お：グミ			<ul style="list-style-type: none"> ・店の横の自動販売機で飲み物を買おうとすると嫌がり、店の方へ行こうと激しく強く教師の手を引っ張る。(写真5) →前回の経験から店ではおやつを買うと思っている。 細かい活動内容の予告まで必要なのか。 ・白鳥路でおやつを食べ、帰路に着く。帽子を脱ぐ。校舎が近づくと泣き始め、道路に寝そべて大泣きする。 →本人としては前回の店でお菓子を買うつもりだったからか。
10/9	松山寺	T：リュック 財布 紙コップ N児：帽子 <input checked="" type="checkbox"/> 買：ジュース、チョコ <input type="checkbox"/> お：なし	<ul style="list-style-type: none"> ・出かける ・飲み物をのむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・行く前に荷物の確認をする。紙コップを見せ「Nちゃん、これ置いていこうね」と机の上に置いていこうとすると、自らリュックの中に入れる。 →前回と同じようにしたいor要求表現か。 ・店ではお菓子を手に取ることはなく、チョンチョンと触るだけ。 ・飲み物とお菓子が入った袋を持って歩く。 ・帰り道、泣くこともなく満足げ。途中で帽子を脱ぐ。 →本人の納得できる散歩だったようだ。

「おやつなし」さんぽの試み

	行き先・内容	手がかり	N児の予測	ようす(・) 考えたこと (→) 次回の支援(*)
10/30	兼六園 <input type="checkbox"/> 買：なし※ <input type="checkbox"/> お：なし	T：ミニリュック 着替え N児：帽子	<ul style="list-style-type: none"> ・なにかちがう ・おやつの有無がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おやつなし」の手がかりにしたミニリュックを見ている。(写真1) ・出発前に荷物を見せながら「今日はおやつなしね」と話す。 いつもと何かちがうかなあ…というような表情をしている。 ・学部全員で散歩。園内を歩くが、途中から帽子を脱ぎ、ゴムを持ってぐるぐる振り回している。(写真2) →「今日はおやつがなさそう。もうおわた。」という合図。 ・結局、おやつ途中購入となる。一旦脱いだ帽子をかぶり直し、「おやつちょうだい」と身振りサインで要求する。(写真3) →「おやつなし」の手がかりとしてミニリュックを継続する。 予告するときに「ない」の身振りサインも入れる。*
11/18	中央公園 <input type="checkbox"/> 買：なし※ <input type="checkbox"/> お：なし	T：ミニリュック 着替え N児：帽子 ジャンパー	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつの有無がわからない ・どこへいくのかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声にサインも加えて予告するとミニリュックを見ている。 ・場内では建物がある方へグイグイ手を引っ張っていく。 →「食べ物(自動販売機など)ないかな」という様子である。 ・城を越えたあたりから座り込み、歩く意欲なしになる。 →「おやつなし」の意味が伝わっているのかもしれない。 →初めてのコースだったのでいつまで歩くか、どこへ行くか見通しがたかないのではないか。 ・公園に着いても走り回ることなく、建物のある方へ手を引っ張っていく。 入れないことがわかると、今度はうずくまって、遊ばない。「うえ〜っ」と声を出すのが長泣き、大泣きにはならない。10分ほどしてから少し遊び始める。(写真6) →「おやつなし」意味がわかっているように見える。大泣きしないことから、自己調整しているものと思われる。 ・結局、最後にドーナツが出る。帰り道、ドーナツの箱を見てほしかつたらしく、もらえないと道路に寝そべて大泣きする。 →残っているのに食べられないことには納得できない。

※この2回は他クラスとの合同散歩。当初「おやつなし」の予定だったが、他児のリクエストもあり途中購入となる。

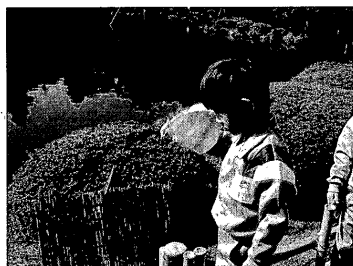


写真2



写真3

7. まとめと今後の課題

(1) 1, 2学期の取り組みをふりかえって

①実物を用いた内容の予告に関して

- ・リュックサック、外出用の帽子…予告時に見せることにより音声言語だけの働きかけの時より準備行動がスムーズになった。N児はこれらを手がかりに散歩に出かけることを理解し、見通しをもてたものと考えられる。

こうした働きかけを繰り返したことは、散歩への意欲喚起にもつながった。N児にとって日常、使っている実物を用いた予告は情報として取り込みやすく有効であったと思われる。

これ以外に毎回、朝の会で時間割カードによる予告を行っているが写真の部分をよく見ており、写真カードの使用にも期待がもてる。(写真4)

②おやつの予告に関して

- ・紙コップ…飲み物を飲むことに直結しており、活動内容にイメージをもちやすくてきたものと思われる。紙コップを持参するかどうかたずねたときも実際の行動で「もっていく」と応えることができ、要求を伝達する行為に結びつく可能性を示していた。
- ・財布…財布→買い物をするに結びついたかどうか確かめることはできなかった。
- ・ミニリュックサック…「おやつなし」散歩の手がかりとして取り入れた。音声言語、身振りサインも同時に加えた。11月18日の様子からはこの予告をN児なりに理解していた様子がうかがえる。目の前にあるおやつをもらえないときのような爆発的な泣き方でなく、自分の心と葛藤しているような泣き方で、初めて見るN児の姿であった。今後も引き続きそれらの手がかりの有効性を探っていきたい。

(2) 今後の取り組みについて

実物から様々な見通しが育ちつつあるN児だが、店→おやつを購入した次の散歩では紙コップという手がかりを用意し、店の横の自動販売機で飲み物を買ったにも関わらず大泣きした。店でおやつを買うという前回の体験が強く影響しており、紙コップという手がかりが有効ではなかったものと考えられた。今後は実物だけでなく必要に応じて、写真カードなども取り入れ、コミュニケーションの手段とし、散歩のより具体的なイメージがもてるための手だてとしたい。

生活の中でも「～でなければならない」ということがいくつか出てきたN児だが、別の道筋もあることを理解し、受け入れることができるように、内容に応じた支援を工夫していきたい。

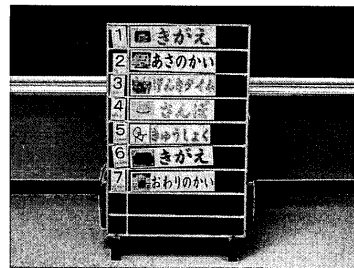


写真4

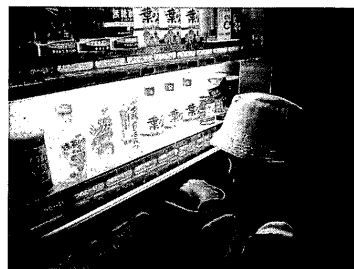


写真5



写真6